

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会
第 47 号
2015 (平成27) 年1月17日 (土)

論語塾に通って

札幌市立幌北小学校6年 高橋 せれん

私が論語塾に通い始めたのは、一年前の三月からです。私は最初、論語のことはもちろん、論語塾がどんなことをするのかもわかりませんでした。しかし、一度行ってみると孔子先生のことなどについて知りたくなり、伝記を読んだりしました。そして、今は論語の意味をよく考えるようにしています。

そんな私のなるほどと思った章句があります。それは、「三人行れば、必ず我が師有り。其の善き者を択びて之に従い、其の善からざる者にして之を改む」です。この章句の意味は、三人で行動すると必ず良い人と悪い人がいて、良い人を見て従い、悪い人を見て自分を改める、ということです。

なぜ、その章句が好きなのかというと、前に述べた通り、なるほどと思ったからです。私は相手の悪いところや、自分の悪いところがわかったとしても、完全に直すことは難しいことだと思います。しかし、良いところはまねをして、悪いところを改めるように努力することが大事なことだと思ったので、この章句を選びました。

私はこの寺子屋・こども論語塾で、初めて論語や孔子先生のすごさを知ることができました。これからも、たくさん論語を学んで良いことを身に付け、悪いところは改めるように努力し、大人になっても「仁の心」を忘れない君子になりたいです。

※ 来月(2月)は、数馬田 史織さん(小5)をお願いします。

◆ちょっといい話

塾生の池田真帆(桑園 小5年)さんが、先月の12月18日(木)、北海道新聞朝刊の「探る見る」の記事で、囲碁をしている写真とコメントが掲載されていましたのでお知らせします。

◆「みんなの声」の箱より

先月の「フラミンゴ ジャズバンド」の生演奏、皆さん方とても格好良かったです。特に“きよしこの夜”がとても良かったです。との投書が寄せられました。(メンバーの一人曰く「感激です」とのこと。)

感性を磨くために！

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

あけましておめでとうございます。

新しい年がスタートしました。早いもので、この「寺子屋・こども論語塾」も5年目に入ります。

今年こそ、平和な住みよい年になることを祈らずにはられません。

さて、21世紀は「心の世紀」とも言われています。言い換えれば、豊かな感性が求められているということです。では、その感性を磨く(心で感じる度合いを強める)ためには、どうすればよいのでしょうか。

私は四つの要素があると思っています。

一つは、多くの人々との出会いと交流であり、二つは、自然と交わっての新しい発見と感動であり、三つは、間接体験、つまり本を読むことであり、四つは、直接体験をたくさんつむことだと思っています。

私の弟子である塾生には、この四つの要素をしっかり身につけて感性豊かな人に成長して欲しいと願っています。